

◆大阪ブランド情報局は、大阪のさまざまなブランド資源情報を発信するホームページです。  
その最新情報のいくつかをご紹介します。

## 『水都大阪2009』が大賞受賞 関西元気文化圏推進協議会賞・贈呈式 (平成22年1月18日／ホテルニューオータニ大阪)

関西元気文化圏推進協議会(自治体、経済界など107団体)は、文化を通して関西から日本を明るく元気にした人や団体をたたえる『平成21年関西元気文化圏推進協議会賞』の大賞に、『水都大阪2009』を選び表彰しました。賞贈呈式は文化庁芸術祭と合同で開催。玉井日出夫文化庁長官や協議会代表委員の秋山喜久氏(関西広域機構会長)らが列席のもと、水都大阪2009実行委員長の平松邦夫大阪市長に賞状と記念盾が贈られました。

平松市長は、「水都大阪2009は、平成14年に府・市・経済界による『花と緑・光と水懇話会』で、淀川改修100周年にあたる2009年に水の都をみんなでブラッシュアップしようと発案された。開催にあたっては市民の皆さんの協力を得て、延べ190万人の来場者があった。今後も水の都大阪の魅力発信に連携・継承・継続して取り組んでいきたい」と笑顔で語りました。

関西元気文化圏は、平成15年3月発足のプロジェクト。提唱者は当時文化庁長官だった河合隼雄氏。以後、毎年表彰を行っています。



受賞の喜びを語る平松邦夫大阪市長

## 大阪21世紀協会提供 インテリジェントアレー 専門セミナープログラム

大阪21世紀協会は、大学などの研究機関と連携し、知的成果を社会に活用する“社会学連携事業”に取り組んでいます。平成21年度はNPO法人関西社会人大学院連合との連携協定を締結し、同連合が主催する「インテリジェントアレー 専門セミナープログラム」の企画・運営を行いました。平成22年1月から3月のプログラムのテーマは『都市文化論～まちづくりまち育て～』。水曜日の夜、キャンパスポート大阪(大阪駅前第2ビル)で全6講座が開講され、ビジネスマンやまちづくりや地域ブランディングに関心のある人たちが学びを深めました。各講座のテーマと講師は次の通り。(1)都市ブランドを考える／陶山計介、(2)水都大阪による都市再生／室井明、(3)ワークショップ都市・大阪／小原啓渡、(4)コンテンツによる地域おこしの実際／間藤芳樹、(5)開発途上・まちおこしとしての市民力／林信夫、(6)まちづくりと「コア・アイデンティティ」／堀井良殿。

## 交流サロン・21cafe <第19回>開催

(平成22年1月22日／大阪大学中之島センター)

ゲスト：河島 伸子氏(同志社大学経済学部経済学研究科教授)

「文化政策の国際比較」

「ヨーロッパの文化政策には3つのパターンがあります。一つ目は国家的取り組みとして芸術文化を支援するフランス・ドイツ型。統治者が“文化をもって国を構築したい”の哲学を持ち、予算をかけて文化事業に取り組んでいます。二つ目は社会福祉政策の一環として、国民が文化に接する機会を提供する北欧型。アメリカ文化の侵食からの自国文化の擁護という側面も持っています。三つ目は市場主義をベースに、産業育成政策等に限定して支援を行うイギリス型。国民教化という背景があったため、美術館の入館料が無料であるなど、アクセシビリティという点で評価できます。アメリカはイギリス型に近いですが、フィランソロピーの伝統が強く、個人による寄付が文化を支えています。背景には税制上の優遇措置と、芸術文化に関わることのプレステイジ意識があります。

日本の文化行政を考えるうえでもっとも参考になるのは、イギリス型だと私は考えています。特に国家的補助が少なく、文化に対する理解も不十分な状況で、民間がサービスの内容、利用者への配慮などの工夫をしている状況には、学べき点が大いにあるのではないのでしょうか(当日の河島氏の講話より抜粋)



河島 伸子氏